



第78期 第2四半期株主報告書

平成22年4月1日から平成22年9月30日まで



西部電機株式会社

株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループの第78期第2四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)の決算が終了いたしましたので、その概況をご報告申し上げます。

商品力と販売力の強化で 安定成長を目指します。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、アジア向けを中心とした輸出に支えられ景気は回復の兆しが見られたものの、欧米の景気減速懸念や急激な円高・株安、デフレの進行等により、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような情勢の中で、当社グループは新商品の開発、提案型営業の積極的展開、品質ならびに生産性の向上、さらにはコストダウンや経費の削減に全社を挙げて努力してまいりました。

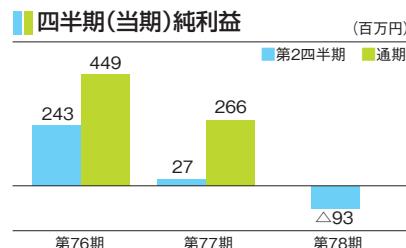
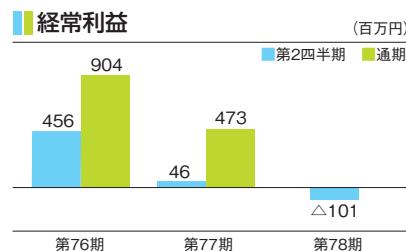
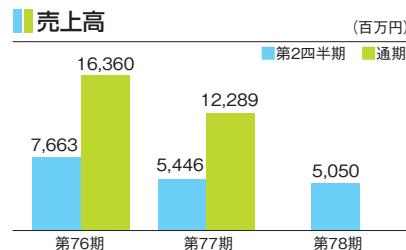
しかしながら、当社グループの連結業績は、公共投資の抑制や企業の設備投資に対する慎重な姿勢が継続するなどの影響もあり、受注高は61億2千4百万円(前年同期比3.5%減)、売上高は50億5千万円(前年同期比7.3%減)となりました。また、損益においては、経常損失は1億1百万円(前年同期は、経常利益4千6百万円)、四半期純損失は9千3百万円(前年同期は、四半期純利益2千7百万円)となりました。

当社グループといたしましては、さらに企業体質を強化するために、変化する経済環境を十分に認識いたし、景気に左右されないオンリーワンの新商品の開発と、これらの市場投入による受注・売上の拡大、コストダウンや経費の削減に一層注力いたす所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後ともよろしくご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



取締役社長 木村 稔



通期の見通し

売上高

13,600百万円
前期比10.7%増

経常利益

580百万円
前期比22.4%増

当期純利益

310百万円
前期比16.4%増

TOPICS

トピックス

2010

4月

INTERMOLD 2010 (第21回金型加工技術展) に出展

「高精度」「高品質」「生産性向上」という視点が集まる中、精密機械部門は「超精密」をコンセプトに商品開発を進めております。

4月に開催されましたINTERMOLD 2010では、Mシリーズの新型加工機『M50A』を出展いたしました。

この『M50A』は最新鋭のCNCの搭載、省エネ・省スペースの実現と、革新技術を取り入れた商品で、大型ディスプレイ(15インチ)の採用により、操作性と表示情報量も一段と向上しました。



会 期

平成22年4月14日(水)～17日(土)

会 場

インテックス大阪

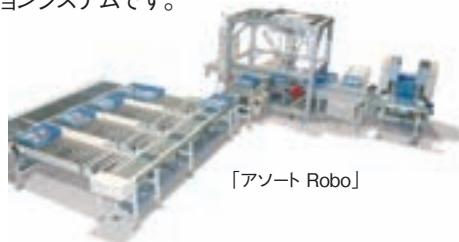
2010

9月

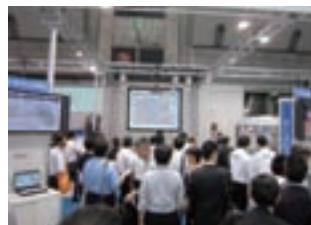
国際物流総合展2010 LOGIS-TECH TOKYO 2010 に出展

当社は、「豊かな未来を拓くロジスティクスイノベーション」～環境調和とグローバル化～をメインテーマに開催された国際物流総合展2010に、新しい仕分けシステム『アソート Robo』を出展いたしました。

この『アソート Robo』はピース品をパラレルリンク式ロボットにてピッキングし、仕分け、積み付けまでを自動化した次世代ソリューションシステムです。



「アソート Robo」



会 期

平成22年9月14日(火)～17日(金)

会 場

東京ビックサイト(東京国際展示場)

産機部門

NEW

「Semflex[®]-A」 (インテリジェント型電動バルブアクチュエータ) を開発しました。

「Semflex[®]-A」シリーズの開発コンセプトは、小型・軽量・コンパクト(発生トルク比:世界最小最軽量)に加えシーケンス運転を可能にするプログラム機能・バルブの開閉速度変速機能などを盛り込んだ最新鋭の電動バルブアクチュエータです。

各種プラント設計部門より配管面積の削減などに貢献できるとの評価を頂いております。



精密機械部門

NEW

「SuperMM50A」 (超精密ワイヤ放電加工機) を開発しました。

ワイヤ放電加工機「MAシリーズ」の最高峰「SuperMM50A」は、超精密フィールドに踏み込むピッチ精度 $\pm 1\mu\text{m}$ を実現し、ジグ研レスで金型製作を提案できる画期的なマシンです。

加工槽に上下スライド扉を採用し、従来比35%減の省スペース化と作業性向上を実現しました。また、最新CNCの採用により2～10倍の処理速度向上、新型加工電源の開発により28%の省エネ化、加工性能の向上も実現しています。



主要な事業別営業の概況

搬送機械事業

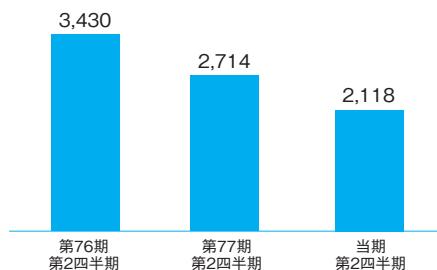
搬送機械事業では、既存顧客からのリピート受注、小型自動倉庫や製造業の生産・物流分野などに、ピッキングシステムや新商品を使ったソリューションを提案するとともにサービス・メンテナンスにも注力し、拡販を図ってまいりました。

しかしながら、企業の設備投資に対する慎重な姿勢による設備計画の延期や保留が生じるなど、厳しい状況が続きました。

その結果、受注高は24億8千4百万円、売上高は21億1千8百万円となりました。

売上高

(百万円)



売上高

2,118百万円 前年同期比22.0%減

41.9%

納骨厨子格納・搬送システム



アソートブーメランシステム

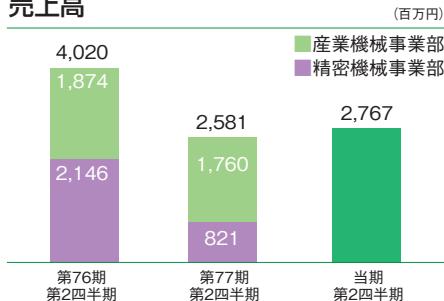


主要商品

- 立体自動倉庫
- カートン自動ピッキング
- ピースピッキング
- FAシステム
- 搬送・ハンドリングシステム

産業機械事業

売上高



(注)当社は平成22年4月1日付をもちまして、産業機械事業部と精密機械事業部を統合し、「産業機械事業部」とする組織の変更を行っております。

産業機械事業の産機部門では、公共投資抑制の影響を受けるなど厳しい環境の中、民間需要の掘り起こしや既存市場におけるシェアアップに注力してまいりました。

また、精密機械部門では、既存顧客の更新需要や新規商社の開拓に注力するとともに、半導体やデジタル家電、光学、自動車市場などに拡販を図ってまいりました。

その結果、受注高は34億7千5百万円、売上高は27億6千7百万円となりました。

54.8%

売上高

2,767百万円

前年同期比7.2%増

主要商品

産機部門

バルブアクチュエータ
ゲート駆動装置

精密機械部門

超精密・高精度ワイヤ放電加工機
高精度小形NC旋盤
高精度自由形状研削加工機

バルブアクチュエータ・プラント採用事例



Semflex® 緊急遮断ゲート・システム



高精度浸漬ワイヤ放電加工機 (M50A)



ワイヤ放電加工風景



連結財務諸表(要約)

第2四半期連結貸借対照表

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科 目	第78期第2四半期	第77期
	平成22年9月30日	平成22年3月31日
資産の部		
流動資産	10,277	10,756
固定資産	11,661	12,174
有形固定資産	8,679	8,762
無形固定資産	18	21
投資その他の資産	2,962	3,390
資産合計	21,939	22,931
負債の部		
流動負債	4,067	4,520
固定負債	3,750	3,701
負債合計	7,818	8,222
純資産の部		
株主資本	10,548	10,699
資本金	2,658	2,658
資本剰余金	2,502	2,502
利益剰余金	5,678	5,828
自己株式	△ 290	△ 290
評価・換算差額等	3,572	4,009
純資産合計	14,120	14,708
負債純資産合計	21,939	22,931

第2四半期連結損益計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科 目	第78期第2四半期	第77期第2四半期
	平成22年4月1日から平成22年9月30日まで	平成21年4月1日から平成21年9月30日まで
売上高	5,050	5,446
売上原価	3,911	4,273
売上総利益	1,139	1,172
販売費及び一般管理費	1,268	1,221
営業損失(△)	△ 128	△ 48
営業外収益	37	108
営業外費用	10	13
経常利益又は経常損失(△)	△ 101	46
特別利益	2	0
特別損失	28	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△ 126	46
法人税、住民税及び事業税	21	27
法人税等調整額	△ 54	△ 9
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△ 93	27

(金額は単位未満を切り捨てております。)

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円
(金額は単位未満を切り捨てております。)

科 目	第78期第2四半期	第77期第2四半期
	平成22年4月1日から平成22年9月30日まで	平成21年4月1日から平成21年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	428	△ 294
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 40	23
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 57	△ 63
現金及び現金同等物の増減額	330	△ 335
現金及び現金同等物の期首残高	3,629	2,892
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,960	2,557

会社の概況・株式の状況

(平成22年9月30日現在)

会社の概況

商号	西部電機株式会社
英訳名	Seibu Electric & Machinery Co.,Ltd.
本店所在地	福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
設立	昭和14年2月1日
資本金	26億5,840万円
従業員数	407名(連結446名)

役員

取締役会長 (代表取締役)	吉住一成
取締役社長 (代表取締役)	木村 皕
常務取締役	宮地 敬四郎
常務取締役	大串 秀文
取締役	藤岡 敬正
取締役	木谷 泰博
取締役	中里 晋也
取締役	税所 幸一
常勤監査役	平塚 皓
監査役	小西 正純
監査役	鬼頭 正雄

(注) 監査役小西正純、鬼頭正雄の両氏は社外監査役であります。

株式の状況

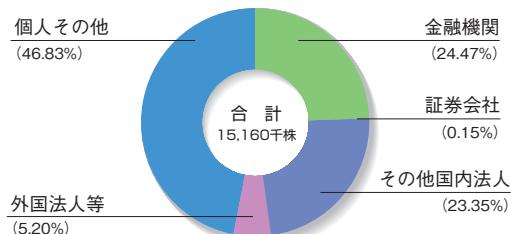
発行可能株式総数	32,980,000株
発行済株式の総数	15,160,000株
株主数	1,622名 (前期末比8名減)

大株主

株主名	持株数	持株比率
株式会社安川電機	2,630千株	18.71%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	770千株	5.47%
株式会社三菱東京UFJ銀行	650千株	4.63%
株式会社福岡銀行	633千株	4.50%
みずほ信託銀行株式会社	626千株	4.45%
株式会社西日本シティ銀行	589千株	4.19%
バンクオブニューヨーク・シー・エムクライアントアカウンツ ジェビー・アール・シー・アイティー・アイシー	528千株	3.76%
西部電機従業員持株会	378千株	2.69%
村上 博	215千株	1.53%
日本生命保険相互会社	152千株	1.08%

(注) 1. 当社は、自己株式1,107,981株を保有していますが、上記大株主からは除いております。
2. 持株比率は自己株式(1,107,981株)を控除して計算しております。

所有者別分布状況



■株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	1,000株
剰余金の配当	毎年3月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対してお支払いいたします。
中間配当	取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対してお支払いいたします。
公告方法	電子公告により、当社ホームページ (http://www.seibudenki.co.jp/) に掲載いたします。なお、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
基準日	毎年3月31日 その他必要があるときは、取締役会の決議によってあらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人 および特別口座管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
お問合せ先 〔郵便物送付先〕 〔電話問合せ先〕	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)

ホームページのご案内

<http://www.seibudenki.co.jp/>

または、

西部電機

検索



表紙の絵は、本社玄関フロアに展示されている陶版画で、奥入瀬渓流の四季をモチーフに『自然随順』を表現しております。当社が「我々のロマン」として掲げるスローガン「我々は技術の本質を謙虚に探索し自然随順に即した応用で広く世界に貢献しよう」は、好不況にかかわらず、ロマンを胸に、機械文明と自然が共存し得るとの信念で謙虚さと誇りをもって商品を作り、広く世界に貢献することを宣誓しています。



この報告書は再生紙および植物油インクを使用しております